

## とやま新時代における 交通基盤整備と魅力あるまちづくり

### 1. はじめに

富山県は、日本海側屈指の工業集積を有する一方、豊かで美しい自然や多彩な歴史文化など、魅力あふれる観光資源に恵まれています。

こうしたなか、平成27年3月の北陸新幹線の開業から4年半が経ちましたが、乗車人員は開業前の3倍近くの高い水準が続くとともに、観光地等での入込客数の増加、企業立地の進展、若い世代を中心とする本県への移住者の増加など様々な効果が現れています。

このように新時代を迎えた本県の概ね10年先を見据えた目指すべき将来像を描き、その実現を図るため、昨年3月に策定した新総合計画「元氣とやま創造計画」に基づき各施策・事業を総合的、戦略的に進めています。

### 2. 陸・海・空の交通基盤整備

本県では、陸・海・空の交通基盤整備と新幹線を軸とした広域交通体系の形成を進めているところです。

#### 1) 北陸新幹線の延伸

北陸新幹線は、日本海国土軸の形成や国土の均衡ある発展にも不可欠な国家プロジェクトであり、特に、大規模災害時等においては東海道新幹線の代替補完機能を果たすものです。

このため、令和4年度末に予定されている敦賀延伸、さらには北海道新幹線・札幌開業頃までの敦賀・大阪間の全線開業について、引き続き関係機関に強く働きかけてまいります。

#### 2) 東海北陸自動車道の4車線化

東海北陸自動車道は、太平洋側と日本海側を結ぶ大動脈であり、災害時の緊急輸送道路や代替迂回路となるなど極めて重要な路線であり、これまで、岐阜県などと連携し、全線4車線化に向けて、関係機関に強く働きかけてまいりました。

こうしたなか、先月開催された国の社会資本整

備審議会 国土幹線道路部会において、「高速道路における安全・安心基本計画（案）」の中の優先的に4車線化をすべき区間として、東海北陸自動車道の富山県の南砺スマートICから岐阜県の飛騨清見IC間が選定されたところです。

今後、全線4車線化の早期事業着手及び早期供用開始に向け、岐阜県や関係市町村との連携を強め、これまで以上に取組みを強化してまいります。

#### 3) 伏木富山港の機能強化

日本海側の総合的拠点港である伏木富山港は、日本海側屈指の貿易港であり、コンテナの増加や船舶の大型化に対応するため、岸壁の延伸、大水深化やコンテナヤードの拡張など、港湾機能の強化等に取り組んでいます。

また、富山湾が、ユネスコの支援する「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が認められてから5周年を迎える本年10月には、日本で初めてとなるクラブ世界総会が本県で開催されます。

これを契機として、国際的に富山湾のブランド価値を高め、さらなる観光振興・地域活性化につながるよう、「富山湾岸サイクリングコース」の整備や外航クルーズ客船の誘致など富山湾の魅力を活用した取組みを進めています。



富山湾岸サイクリング2019（4.14開催）

#### 4) 富山きときと空港

富山きときと空港は、本県と全国・世界との交流を支える重要な拠点空港であることから、新たな旅客需要の確保、羽田経由の国内外への乗継利便性の向上や国際定期路線の拡充など、今後とも航空ネットワークの維持充実に取り組んでまいります。



### 3. 魅力あるまちづくり

北陸新幹線の整備にあわせ、富山駅付近連続立体交差事業や富岩運河環水公園の整備など、魅力あるまちづくりを進めています。

#### 1) 富山駅付近連続立体交差事業

駅南北の一体的なまちづくりの推進や、鉄道と交差する道路の新設・拡幅による交通渋滞の解消を図るため、平成17年度から富山駅付近連続立体交差事業を進めており、本年3月には、あいの風とやま鉄道線の高架化が完成しました。

この高架化の完成により、駅周辺の道路整備や富山市が施行する路面電車の南北接続などが進められ、駅周辺の一体化が図られるとともに、駅の高架下には、新たに飲食ゾーンやカフェなどが整備されることとなります。

また、あいの風とやま鉄道に引き続き富山地方鉄道本線の高架化を進めており、駅周辺がさらに活力と賑わいある都市空間となるよう、今後とも富山市と連携しながら取り組んでまいります。

#### 2) 富岩運河環水公園

富山駅北側にある富岩運河環水公園は、県内外から年間200万人以上の皆様が集い、憩い、水と緑に親しむことができる、県を代表する観光スポットとなっています。



富岩運河環水公園

平成29年には、公園内に富山県美術館が全面開館し、屋上庭園「オノマトペの屋上」には多くの家族連れが訪れるなど、魅力的な施設となっています。また、富岩運河内を運行する富岩水上ラインは、本県の代表的な観光資源として定着して

おり、本年3月にはトイレ・エアコンを装備するなど快適性を一層高めた新艇「kansui」が就航し、多くの方々に利用いただいています。

### 4. 「立山・黒部」の世界遺産登録に向けて

本県は、世界有数の急流河川などが多く存在し、これまで幾度となく河川の氾濫や土石流などの被害に見舞われてきました。このため、100年以上も前から立山カルデラで日本屈指の砂防事業を展開するなど、知恵や技術を駆使しながら、治水・砂防等の防災・減災対策に積極的に取り組んできました。

これらの取組みが高い歴史的・文化的価値を有することから、県においては、立山砂防を中心とした「立山・黒部」の世界的文化遺産登録に向け、積極的に取り組んでいるところです。

こうしたなか、平成29年には、本宮堰堤と泥谷堰堤が、すでに指定されていた白岩堰堤と合わせて「常願寺川砂防施設」として国重要文化財に指定されるとともに、「立山砂防施設群」が日本イコモス国内委員会の「日本の20世紀世界遺産20選」に3番目という上位で選定されました。

さらに、昨年10月に世界27の国と地域から多くの土砂災害の専門家などが富山に集結し開催されたインタープリメント2018富山では、立山砂防が世界文化遺産にふさわしい顕著な普遍的価値があると明示した「富山宣言」が採択されました。今後も立山砂防の世界遺産登録に向けて鋭意取り組んでまいります。

### 5. おわりに

5月1日、天皇陛下がご即位され、本県ゆかりの万葉集を出典とする新たな「令和」の時代が始まりました。

今後とも、この勢いをしっかり持続させ、「令和の世」にふさわしい新時代の活力と魅力あふれる県づくりに果敢に挑戦してまいります。